

美瑛富士・携帯トイレシステム6年目の活動報告

美瑛富士トイレ管理連絡会
事務局 山のトイレを考える会

1. 固定式携帯トイレブース設置から2年目

2019年9月10日、念願の固定式携帯トイレブースが環境省により供用開始されました。冬囲いが9月29日でしたから、2020年が本格的な供用開始年とも言えます。

2019年4月25日に北海道地方環境事務所、美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会（以下美瑛トイレ連絡会）の三者で「美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書」を締結し、また、環境省は固定ブースの改築及び改修・大規模な修繕、美瑛町は軽微な修繕と冬囲い・回収ボックスの管理、そして美瑛トイレ連絡会はブースの点検及び清掃・周辺の清掃を担うことを決めました。

そして2020年シーズンを迎え、清潔なトイレブース、ティッシュや汚物の無い野営指定地、ゴミの無い綺麗な小屋となるよう、美瑛トイレ連絡会では引き続き点検パトロールを継続実施しました。



テント式携帯トイレブース
(2015年～2019年)



固定式携帯トイレブース
(2019年9月～)

2. 2020年点検パトロール等の実施状況

2020年も美瑛トイレ連絡会により、6月28日～9月27日までの3ヵ月間、固定ブースの点検パトロール・維持管理を7回予定、あいにくの荒天で1回は中止となったものの、6回実施することができました。

・ 6月28日（日）…固定式携帯トイレブースの供用開始（環境省・美瑛山岳会）

- ① 7月19日（日）…札幌山岳連盟：9名
- ② 7月26日（日）…北海道山岳連盟：6名
- ③ 8月2日（日）…道北地区勤労者山岳連盟：10名

- ④ 8月16日(日)…山のトイレを考える会：3名
- ⑤ 8月30日(日)…道央地区勤労者山岳連盟：荒天中止(16名)
- ⑥ 9月15日(火)…北海道山岳ガイド協会：2名
- ⑦ 9月27日(日)…大雪山国立公園パークボランティア連絡会(以下 大雪山PV連絡会)・環境省：8名

同日、固定式携帯トイレブースの冬囲いも実施 延べ6回38名
(備考) 日本山岳会北海道支部は当会の調整ミスで実施できませんでした。



点検パトロールを終えて



のぼりのポールを担ぎ上げ



便座は除菌シートで拭き上げ



携帯トイレブースの冬囲い(9月27日)

3. 点検パトロール実施報告から

美瑛トイレ連絡会の参加団体等から次のような報告がありました。

《固定式携帯トイレブースについての感想や課題》

- (1) 構造が頑丈で、美観も保たれており、使用者も汚さずに使うだろう。(札幌山岳連盟)
- (2) 張りワイヤーはアンカーとなる鉄ピンが固定しておらず、抜本的な改善が必要。
(北海道山岳連盟、山のトイレを考える会、北海道山岳ガイド協会、大雪山PV連絡会)
- (3) 床の鋼板がズレていたのを、針金で固定した。(道北地区勤労者山岳連盟)
- (4) 扉の内側にカビが発生していた。防腐剤を塗布してはどうか。(大雪山PV連絡会)

《その他の感想や課題》

- (1) 小屋内に、のぼり掲出のためのポールを常備したい。(山のトイレを考える会)
- (2) 小屋の入口側のガラス窓に、30cm～40cm のヒビを発見。交換もしくは補修が必要。
(北海道山岳ガイド協会、大雪山P V連絡会)
- (3) 富良野岳～十勝岳区間に携帯トイレブースがほしい。(北海道山岳ガイド協会)



小屋周辺を清掃



張りワイヤーが課題

なお、多くの参加団体から改善要望のあった張りワイヤーの問題については、環境省に対して改善要望を提起した結果、修繕に対しての理解を得られ、具体的な施工方法についての検討段階に入っています。

4. 携帯トイレブースの利用数

2020年のカウンター値から携帯トイレブースの利用数を把握しました。カウンターの誤動作を考慮し推定した結果“203”となりました。ちなみに、前年からの違いとして、2020年は携帯トイレの無料配備は行っていません。(2017年から3年間、小屋内に無料配備)

(表－1) 2020年携帯トイレブースのカウンター値

月/日	7/19	7/26	8/2	8/16	8/30	9/15	9/27
数値	*1129	*1169	*1202	*1235	中止	**4489	**4503

*誤動作 1100+ **誤作動 4300+ ⇒ 推定利用数：203

2015年～2020年の利用数は(表－2)のとおりです。

(表－2) 年度別携帯トイレブースの利用数(推定)

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020
利用数	※88	179	180	196	218	203

※誤動作により、88以上としか推定できず

5. ティッシュ、汚物の回収状況

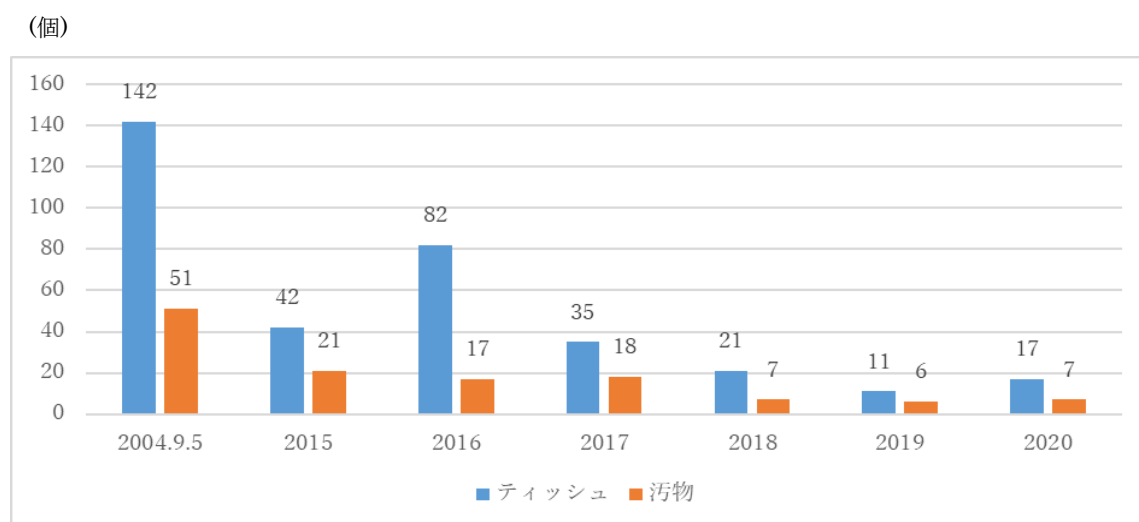
2015年から実施して6年目が終わりました。ティッシュや汚物の回収は、2020年にはそれぞれ17個、7個。最近3年間はほぼ安定した回収数です。そもそも2004年9月5

日に山のトイレを考える会が清掃登山を実施した際、ティッシュ 142 個、汚物 51 個を回収しました。年度別推移を（図－１）に示します。

この６年間の回収数は 2004 年と比較すると激減しており、携帯トイレブースや回収ボックスの設置、さらに広報活動、啓発活動等、いろいろな施策の成果だと確信します。

登山者が安心、快適に携帯トイレを使用できる環境整備、さらに美瑛富士避難小屋を利用する場合は携帯トイレを必ず所持する広報など、地道に活動を継続していきます。

（図－１）美瑛富士のティッシュと汚物回収数の年度推移

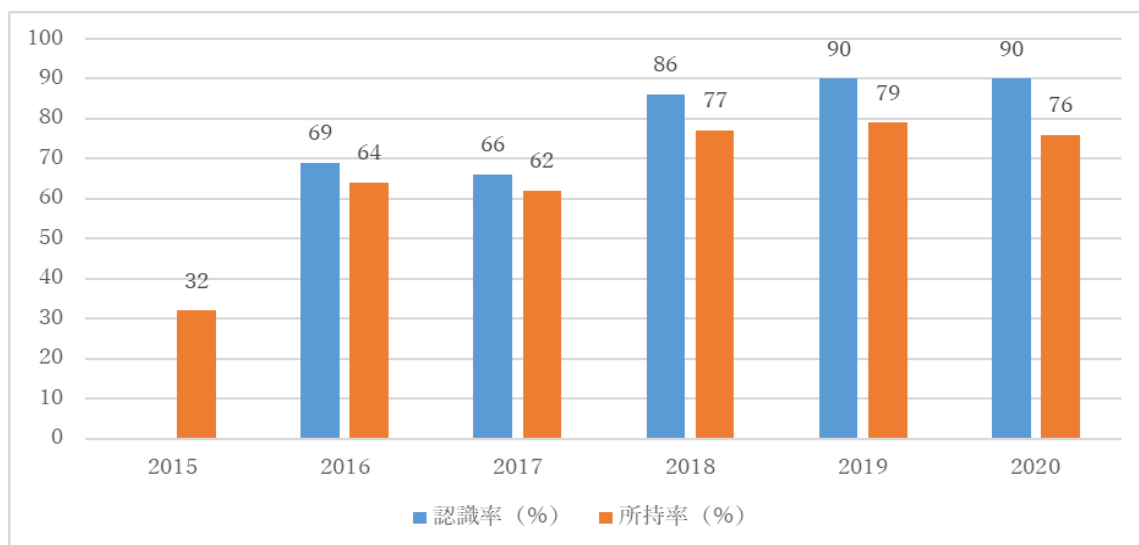


6. 認識率と所持率の推移

美瑛富士避難小屋にはトイレがなく、携帯トイレの使用をお願いしていることを知っていたか＝認識率、携帯トイレを持ってきたか＝所持率を環境省は避難小屋や美瑛富士登山口にてアンケート調査を実施しました。

2020 年は認識率 90%、所持率 76%でした。年度別推移を（図－２）に示します。

（図－２）携帯トイレ・認識率と所持率の推移



※ 2015 年、2020 年は登山口での調査。それ以外の年は避難小屋での調査

携帯トイレの所持率を登山形態別に示すと、宿泊登山者は95%、日帰り登山者は50%の所持率。また、小便については、携帯トイレ所持者（59人）のうち約半数の28人（男23人、女4人、不明1人）が、野外で排せつしているとの結果でした。

昨年の本稿でも、登山者から「小用に携帯トイレ500円は高価」との意見があった旨の記述がありました。より安価で使いやすい携帯トイレの開発も望まれるところです。

携帯トイレの普及については、環境省、林野庁、自治体、山岳団体、宿泊施設、登山用品店などそれぞれが多様な方法で広報に協力していただきました。特に新聞報道の機会を増やすように努めました。

今後も上記の他にもfacebookをはじめとして、ヤマレコ、YAMAP等のサイトでの一般登山者からのSNS投稿を増やす等の施策を行い、更なる所持率の向上を目指したいと思います。



美瑛富士登山口でのアンケート調査

7. 2021年に向けて

いよいよ2020年から、本格的に固定式トイレブースが供用開始されました。美瑛富士避難小屋周辺でのティッシュや汚物の回収数や携帯トイレの認識率や所持率は、ここ数年横ばい傾向にあります。これが限界なのでしょうか。決してそうではありません。ティッシュや汚物を限りなくゼロにするために、携帯トイレの認識率や所持率を100%に近づけるために、そして何といても、登山者の排せつの回数だけ固定式携帯トイレブースが活用されるために、美瑛トイレ連絡会では引き続き点検パトロール作業並びに各種啓発活動を担っていきます。

(以上)

(備考) 美瑛富士トイレ管理連絡会の構成団体＝北海道山岳連盟・札幌山岳連盟・北海道勤労者山岳連盟・北海道道央地区勤労者山岳連盟・北海道道北地区勤労者山岳連盟・日本山岳会北海道支部・北海道山岳ガイド協会・大雪山国立公園パークボランティア連絡会・山のトイレを考える会

(文責：杉下圭史)